

氏 名	大 島 悦 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4460 号
学位授与の日付	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Frontal assessment battery and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease (アルツハイマー病におけるFrontal assessment batteryと 脳灌流画像)
論文審査委員	教授 阿部 康二 教授 大塚 頌子 准教授 浅沼 幹人

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Frontal assessment battery (FAB) は前頭葉機能障害の評価法として有用と報告されている。しかし、アルツハイマー病 (AD) における FAB の成績と関係する神経基盤は十分明らかにされていない。本研究では、AD 患者における FAB で評価された前頭葉機能障害の病態を明らかにするために、FAB 得点と局所脳血流の関係を検討した。対象は、岡山大学病院精神科ものわすれ外来を受診した連続 470 名の中で、Clinical Dementia Rating (CDR) が 0.5 もしくは 1 で、かつ AD の診断基準を満たす者のうち、FAB 得点が 10 点以下の 24 名 (FAB 低得点群)、FAB 得点が 12 点以上である者のうち、FAB 低得点群と年齢、性別、教育歴、Addenbrooke's Cognitive Examination (ACE) の結果を一致させた 24 名 (FAB 高得点群) である。これらに、脳血流 SPECT (^{99m}Tc -ECD) を施行し、そのデータを脳画像解析ソフトウェアプログラム SPM を用いて解析した。FAB 低得点群と FAB 高得点群の 2 群間で Mini-Mental State Examination (MMSE) の得点に有意差は認めなかった。AD における局所脳血流については、FAB 低得点群では、FAB 高得点群に比べて左中前頭回と右上前頭回の血流が有意に少なく、FAB の低得点は同部位の機能低下に関係している可能性が示唆された。FAB は左中前頭回と右上前頭回の機能低下を伴う AD 患者の検出に有用な可能性がある。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、前頭葉機能障害の評価法として有用とされているFrontal Assessment Battery (FAB)とアルツハイマー病 (AD) との関連について、FAB スコアを軽度低下と中等度低下の2群に分け脳血流SPECTT画像との関連で検討したものである。岡山大学病院精神科もの忘れ外来を受診したAD患者48名について、FAB得点10点以下の24名 (低得点群) とFAB得点12点以上 (中得点群) 24 名について ^{99m}Tc -ECD脳血流SPECTを施行して検討した。その結果、FAB低得点群と中得点群の 2 群間で簡易認知機能検査MMSEの得点に有意差は認めなかったが、局所脳血流については低得点群では中得点群に比べて左中前頭回と右上前頭回の血流が有意に少なく、FAB低得点は同部位の機能低下に関係していることが判明した。本研究によりFAB検査は左中前頭回と右上前頭回の機能低下を伴うAD患者の検出に有用な可能性があることが示唆された。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。